



持続可能な社会へ

新国 勇

今年は、かつて経験したことがないくらい異常気象がおきている。このため、猛暑、干ばつ、ゲリラ豪雨が続き、台風や水害が頻発、竜巻が発生するなど、日本じゅう気象災害だらけの状態である。

今年5月11日付の新聞に、「地球の二酸化炭素濃度が400ppmの最高値に達した」という記事が載った。40年くらい前、高校の生物の授業で、地球の二酸化炭素濃度は280ppmと習った記憶がある。この濃度は、18世紀後半の産業革命前まで変わることなかったという。それが、たった100年ほどの間で4割も増えてしまったのだ。石炭や石油を燃やし続けた結果である。

二酸化炭素濃度が増すと、温室効果で地球が熱くなり、さまざまな気象災害がおこるということは、半世紀以上も前から言われていた。そのころゲリラ豪雨という局所的な集中豪雨がくるなんて信じられなかった。しかし、もうゲリラ

豪雨は日常茶飯事である。いまや地球環境はどんなことが起きてもおかしくない状況にきているという。タガはすでに外れてしまっているのかもしれない。

異常気象は地球規模でおきている。発展途上国では、一層深刻だ。それでも、日本も世界も経済の発展をめざしている。もっとお金がほしいのだ。とっくに成長の限界なんか過ぎているというのに。

最近、よく耳にする持続可能な発展とは、将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような発展という意味だという。限りある資源を将来にわたって長く使いながら安定した暮らしをしていこうということだから、身の丈にあった分相応の生活をしていこうということだろう。いま、経済成長というお金中心の考えは改めて、こころの成熟へとシフトする時代にきている。それには、貴重な自然を保全しながら地域の持続可能な発展を目指すユネスコエコパークの理念を具現化しようとしている只見がもっともふさわしい地になりそうだ。

成長社会から持続可能社会へ、それを只見から始めてみたい。

活動報告 (2013年1月～10月)

- 1/14 水鳥観察会 参加6名
- 1/27 第11回 只見の自然に学ぶ会「環境病をいやす奥会津の実践」講師：池谷純人氏
朝日地区センター 約30名
- 2/10 雪まつり参加行事 参加4名
只見町ブナセンター冬芽観察会に参加
- 3/9 定例会 参加12名
- 3/31 「奥会津の木地師」映写会
朝日地区センター 約30名
- 4/14 ユビソヤナギ調査・観察会 参加4名
只見川・伊南川合流点から内川まで
- 5/15 定例会 参加16名
- 5/26 寄岩バードウォッチング 参加9名
20年ぶりに確認できたという絶滅危惧種のチゴモズをはじめ17種の鳥を確認。
- 5/30 幹事会 参加5名
- 6/15 総会と懇親会 参加23名
青少年旅行村バーベキューハウス
- 8/11 黒谷川魚類調査 参加7名
- 9/13 定例会 参加10名
鈴木良三郎さん(92)に戦争体験を聞く

植生モニタリング調査報告

今年の春より高原夫妻を中心に旅行村のハイキングコースを調査地に原則毎月第2土曜日(9時から13時頃まで)に植生調査を行っています。

5/12 3名

つばみ、花、実、胞子のあるものだけをリストにしました。36種類の植物を確認。イワナシがたくさん咲いていました。山の上ではマルバマンサクが満開で、タムシバの花も見頃でした。スミレも5種類ありました。池ではクロサンショウウオとアカガエルの卵を確認しました。

6/8 5名

ヤマツツジやタニウツギなど初夏の花がたくさん咲いており、楽しい調査となりました。今回は花や実を付けた76種類の植物を確認しました。

7/15 6名

トリアシショウマが沢山咲いていて、山頂付近はオオコメツツジが花盛りでした。53種類の植物の花と実を確認しました。また、鳥類の調査も行い、サンコウチョウ1、ヒヨドリ3、ニューナイスズメ3、ホオジロ1、メジロ2、ヤブサメ1、キビタキ3、イカル1、オオルリ1、シジュウカラ1、計10種を確認。超レアになったサンコウチョウの鳴き声を20数年ぶりに聞くことができました。

8/10 8名

8月の半ばだというのにゲンノショウコやミズヒキ、キンミズヒキなどの秋の花がもう咲き始めていました。

●このあと9/14、10/12と調査しました。11月で今年の調査は終了予定です。次号の学ぶ会通信で、くわしく調査報告を掲載する予定です。

会員からの只見自然情報

学ぶ会メーリングリスト(2013.1.1～10.9)より

1/1 新年からイヌワシ!

おめでとうございます。

年末からの大雪がチューハン(昼飯)近くになって降り止んで、青空が差してきたぞや。あんま、いい景色になったもんで、



ユンメツテ(家の前)に出たら、東(只見川方面)の方からこっちに飛んでくる鳥がいる。トンビよりずっとずねえ! おえー! イヌワシじゃ! 翼の下と尾っぽに白い斑がある! 若鳥でねえが! オライ(自宅)の上を飛んで、東方、要害山手前の秋葉山のアカマツに止まった! 急いでカメラを取って返すと、もう柴倉山テメエ(手前)の只見川の上を飛んでいたぞや。いやー、新年そうそう、えらい客が来たもんだ。今年は、いい年になっといいな。(イサム)

1/14 ガンカモ、カウント結果

只見湖でのカモ類カウント結果報告。コハクチョウ2、オカヨシガモ2、ヨシガモ1、ヒドリガモ10、マガモ51、カルガモ82、コガモ40、ハシハジロ44、キンクロハジロ3、ホオジロガモ1、カワアイサ2の全11種、238羽。参加者は、6名。滝湖は湛水されていないのでカウント中止。2年前の大洪水被害によってカモ類が越冬できる環境が回復していません。只見ダム近くの山で、カモシカがのんびり反芻しているのを見て一安心。(イサム)

1/16 雪の花

きょう外に出でみたら、木に白い花がいっぱい咲いてで、たまげだぞや。枝の先つちに、丸い雪がついでんだども、なんでこた丸っこくつぐんだが、わがねえが、まるで白い花が咲いているみでえだ。んじえも、よぐ



見でみっと、丸い雪がみっちりどついでんのは、カエデの木だったぞや。カエデは枝を密につけてっから、雪がつきやすいのがもな。つぎにきれいだったのは、ソメイヨシノがな。離れて見っど、コブシの花が咲いているみでえだ。まわりの景色が白いがら気いつがねえども、天気の良い日に、ちょっと、見でみつくつえ。(イサム)

1/21 巨大雪まくり

きょう、午後3時ころ、肘折の俊行あんにゃがい(俊行さん宅)がら下っ手の山の下斜面で、ばっがあでっけえ(とても大きい)雪まくりを見つけたぞや。直径は1.3mはあつたぞや。小学生の背丈ぐれえある。こつたぞねえあな初めだ。道路がら200mぐれえ、ぼほこぎ(雪の中を雪まみれになって歩く)して来たが、おら、まだ興奮しちまつたぞや。(イサム)



1/21 雪虫

きょう、車庫の屋根さ、雪、届いだがんで、雪掘りしたぞや。そしたら、雪虫、1匹飛んでだっけぞや。寒中だのに天気よぐなって間違っで目一覚めだんだべな。水戸の昆虫写真家、初太郎さんによつと、雪虫じゅうは、クロカワゲラ科、ホソカワゲラ科、シタカワゲラ科の虫を総称して呼ぶがんだっちゅうども、きょうのはコスリカだ。雪の上に出てくる黒っぺえ虫は、みんな雪虫って言うであんめが。(イサム)



1/25 おらいのセンサーカメラ

おらい(自宅)の裏の畑さ、野菜くず投げでんだが、毎年だどキツネの足跡がついでんだども、今年は違ふ。イヌみでえな足跡だ。そんじえ、3日間、センサーカメラ仕掛けでおいでみだ。そしたらタヌキとテンが写つた。タヌキは夜早くと夜明け、テンは夜中に来ていだ。タヌキは雑食だがらなんでも食うべが、テンが野菜を食うとは意外だ。卵の殻も混じつたがら、そつちを食つたがな。タヌキは野菜くず捨てて1時間後に来てだっけな。もう餌付いっちまつたがな。よぐねえど思ふども、もうちょっとカメラで撮つてみでえな。(イサム)



1/26 環境病講演会

あす27日、13時30分から朝日地区センターで、環境病の講演会がありますので、ご案内申し上げます。自ら患者であり、環境病に苦しむ人の手助けするため、NPOを作つて積極的な活動を展開されている方です。天気はわるいと思いますが、ご参加お待ちしております。なお、お時間の都合がつける方は、準備にご協力いただければありがたいです。(イサム)

化学物質過敏症・電磁波過敏症とは聞いたことがあり、興味があり池谷純仁さんのお話を聞いてまいりました。池谷さんは横浜に生まれ育つたとおっしゃっていました。環境病という、聞きなれない病。化学物質や電磁波など目に見えないがモノが原因だとされる奇病によって体調を崩したのが9年前だったそうです。そして、縁もゆかりもない山奥「福島・南会津」へ移住して6年目の厳しい冬を快適に過ごしている

とのことです。「世界一不便なキャンプ場～南会津町あらかい健康キャンプ村」だそうです。食べるものは「玄米と味噌と少しの野菜を食べ」（聞いたことのある言葉ですね）1日2食の生活だそうです。食べ物の陰と陽なども話され自分の食生活も反省しました。もう少し掘り下げたお話を再度聞きたいと思いました。（夢街道）

2/11 只見の巻物

いつも、タヌキどが雪どがばっか出してっから、たまに只見の民俗文化でも出してんべや。只見は600本も巻物がある巻物王国だども、近ごろ、それがちっと有名になってぎだ。今年は千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で只見の巻物が展示されんぞや。3月17日からの民俗展示室のリニューアルオープンでは只見の屋根屋と蒲生の番匠（大工）の巻物、7月2日からの企画展では梁取の松井栄吉さんの鍛冶屋の巻物が出っつおや。ちなみに屋根屋の巻物は、おらいのひいじさまのあんで、明治5年のあんだあ。こごの現代展示室には田子倉集落のでっけえジオラマもあんぞや。近くに行ったときはぜひ見てくんつえ。（イサム）



2/23 カッコネーの発表報告

下田公民館で開催された「旧八十里越の可能性を探る」講演会で、われがらカッコネーが「只見の自然と文化」と題し講演されました。応援団は、信、一恵、勇の3名。当日は主催者の予想をはるかに上回る110名の来場者がありました。ぎっしりの会場なかで、カッコネーは只見を生き生きと紹介しました。



新潟の里山研究会と信越トレイル事務局の人の発表はちょっと眠かったけど、カッコネーは張りがあつておもしろかった！これから全国にはばたいてほしいです。（イサム）

3/12 塩沢のブナ

『日本一の巨木図鑑』（文一総合出版）という新刊がでたので、購入してみました。開けてビックリ、塩沢のブナが日本一でのっていました。日本一のブナは全国にあります、枝分かれしていたり、こぶがあつたりして除外されています。この本は宮 誠而という執筆者が独自の測定法で全国の巨木を調査した結果を発表したものです。

これで塩沢のブナは全国に知られることになりました。課題は、これから来るであろう問い合わせの対処のしかたとガイドラインの作成です。これについては、皆さんと話し合いが必要です。ユネスコエコパークを前にして、さっそく懸案がでた格好ですが、これを弾みに前向きにいきましょう。（イサム）

3/31 映学会のお知らせ

この映画「奥会津の木地師」はすげえぞや。木地師を止めていた古老たちに声をかけて木地の仕事を再現する記録映画だぞや。奥山で小屋がけするごどがら始まって、ブナの木を伐採して、そごがらお椀をチョーナで削り出して梱包して運び出すまでの再現映像だ。民族映像文化研究所の姫田忠義ちゅう人の企画・監督作品。ナレーションも担当してつとも、これがめっちゃくちゃためになる。ぜったい見て損はしねえぞや。レンタル代が2万円というごどだども、惜しいごどはねえ。山の民がいかにしで山の恵みを利用していたかがよーぐわがる映画だあ。昭和村の菅家博昭さんもこの映画の撮影に関わって開眼した人だぞや。せひ、みんなに見てにほしいと思つてんぞや。（イサム）

今日の映学会興味深く見せてもらいました。南郷地区にも木地師集落が、今の駒止トンネルの手前にあり、私が小学校の2年生の頃まで（もう60年も前ですが）同級生がおり、毎日ではないですが学校にきてました。何しろ遠いので、1校時目には間に合わなく遅れてきていたように覚えています。秋になるとみんなに大きなミズナラのドングリを

いっぱい拾ってきてくれました。その年までで、家族で他の山に移ったのか、先生が何か説明されたようにも思いますが、ドングリをもらったのが、最後でした。女の先生でしたが、春の家庭訪問の時遠くて大変だった話をされてました。今思えばその時先生は、砂利道の県道を自転車を押して上がり、途中から山道を歩き、帰りの県道は、ブレーキを引きながらの自転車で、行きも帰りもペダルは不要だったと思いませんか。（禮次郎）

4/5 カンムリカイツブリ繁殖羽

あんまいい天気だったもんで、チューハン（昼飯）過ぎ、只見湖にちょこっと行って来たぞや。カモはほとんど帰つたども、カンムリカイツブリが4羽いたぞや。去年からずっといであんだべな。みんなきれいな繁殖羽になってっから、見に行つてけれ。湖のちょうど真ん中あたりで、さがん潜つてっぞや。特徴ある鳥だから、すぐ分がつと思つぞや。（イサム）



4/10 ウグイスだぞや!

今年の元旦にはイヌワシが飛んで来てビックラしたども、きょうは朝早く、ウグイスが玄関の自動ドアを開けて入ってきたぞや。くちばし開いでハーハーゼーゼーというあんばいで、クタクタだったぞや。きっとヤブから出だごを、タカかカラスなんぞに襲わつちあんでながろが。そして、逃げ場なくなつて、やっごさ、おらいの玄関に入って難を逃れだんであんめが。これは想像だどもな。んじえも、よぐ来てけやつたもんだ。おかげで、上下、左右、頭からしっぽの先まで撮りまぐつて逃がしてやつたぞや。いっちょさげだ。（イサム）



4/11 ムシクイ参上!

きょうお昼すぎ、
ブナセンターの玄
関に小鳥が侵入。
さっそく捕まえで
みだども、はでさ

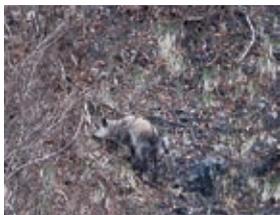


で、しなだ(あなた)はだーれ? セン
ダイムシクイかメボソムシクイのどっ
ちかだとも確証がねえ。センダ
イムシクイは、里山で「焼酎一杯ぐ
いー」って鳴ぐし、メボソムシクイは、
亜高山帯で「チョリ、チョリ、チョリ」と
鈴みでえなきれいな声で鳴ぐんで一発
でわがんだども、鳴がねえとまったく
わがんね。どっちも同じ姿かっこうな
もんで、鳴き声の違いで見分けていん
だべど思うども、ほんどに似でんな。あ
ど、はるかちゃん、無理やり鳥持たせだ
りしで、勘弁しつけれ。(イサム)

4/16 カモちゃん

入叶津はまだ田んぼが見えません。そ
れでも雪崩で地肌が出たところでカモ
ちゃんは食欲旺盛のようです。

(夢街道)



4/17 ユビソヤナギ観察会報告

14日のユビソヤナギ観察会は4人参加
でおこないました。

伊南川と黒谷川のポイントを決め、豪
雨災害後の川の変化とユビソヤナギへ
の影響を見て歩きました。伊南川やそ
の中洲にあるユビソヤナギは多少の被
害は見られるものの全体的には無事で
した、伊南川で一番太い浜野のユビソ
まで行って見てたら地元のおばちゃん
に質問されたので、村の宝にして下さ
いと言ってきました。

黒谷川は、かなり流されたものが多く
川も変化してしまったように思いますが、
黒谷川で一番太いユビソは無事で
した。朝日橋上流左岸、黒谷川合流点ま
でのユビソは10本前後枯死してるの
が気になりました。花は満開です。
雪消えの場所からフクジュソウ、カタ
クリ、キクザキイチゲなどの花が咲き

始め花の観察も一緒にできました。問
題になっていた黒谷入、白沢の堤防工
事現場のフクジュソウが砂利の合間か
ら芽を出してたけれど、これから、どう
なるのでしょうか。(和子)

4/22 ニュウナイスズメ

いま、どこもかしこも、カップルでいっ
ぺえだあ。きょうは、電線さ、ニュウナ
イスズメのカップルがいちゃついでだ
ぞや。交尾は見らんじゃがったども、
チー、チー鳴いで求愛してだずや。
只見には、ほおつたの黒いスズメと、
ほおつたが白いニュウナイスズメの
2種類いっがら、よーぐ見でみつけやれ。
(イサム)



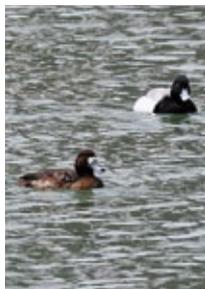
4/30 黒谷川のキタコブシ

遠くからの景色ですが、このような感
じで先週からキタコブシが咲き始めま
した。今年は連休中に見事な満開のコ
ブシが見れそうです。桜も一緒に見れ
そうです。(郁奈)



5/1 スズガモ参上!

スズガモのご夫婦2組が只見湖にいっ
つおや。国道対岸
の石伏側の道路に
行くど、すんま近
くから見られんず
や。海っぱたに行
くど、ばっかいつ
ぺえいるカモだが
らめずらしくも



ねえども、只見ではなかなかお目にか
がれねえあんだ。しかし、このカモ、
面つつきも、目つきも悪いなあ。右が
み、左が早だどもカモのヤーサンみ
でえだ。(イサム)

5/6 セグロセキレイやーい!

今年はセグロセキレイがまったく見ら
んにえ。いつもの年だと3月ころから
やってきて、河原や電線で鳴いでんが
んだども、今年はいねえ。そのかわり、
ハクセキレイは増えでんだ。いまでは、
軒先から河原までどこでも見られるよ
うになっちゃった。それも年中いる。ハ
クセキレイっていえば、30年くれえ
前まではめずらしい鳥で、そのころは
セグロセキレイばっかだつた。それが
今は、ハクセキレイに入れ代わっちゃ
まった。ハクセキレイがセグロセキ
レイを追い出しちまったよーだ。
ちなみにセグロセキレイは日本にしか
いない固有種、ハクセキレイは世界
じゅうどこでも見られる鳥だあ。鳥の
世界も国際化があ? 誰かセグロセキ
レイ見た人は、ご一報くんつえ。
(イサム)

5/6 この鳥は何だろう

昨日、只見線が走る杉林(新町地区)に
こんな羽が散らばっていたのです。気
になって手にとってみると綺麗なブル
ーと黒の縞模様の羽でした。どなた
かこの鳥の正体わかる方がいらっしや
いましたら教えてください。(郁奈)



あーい。それはカケスです。次列風切羽
の一部です。(イサム)

5/7 この鳥は……ツグミ?

今朝の毘沙沢のお
客さんはツグミで
しょうか? (博)
んーとつ、クロツ
グミのメスだべな、
これは。ツグミの
仲間だども、メス



はわがりずれえな。クロツグミのオスは、白黒のダンディなかつこうで、さえずりはほかの鳥もまねできねえぐれえの名歌手だ。いま、あちこちの木の梢で鳴いでっから見でみつけやれ。オラ、クロツグミのさえずりがいちばん好きだ。(イサム)

5/12 この鳥は何だろう？

情けないくらいに鳥の識別ができない。今日の2羽は何でしょうか？ (博)



博さん、これはむずかしいぞや。鳥は下から見るのがふつうで、こだ写真みでえに上から見下ろしたような姿はあんま見られるもんでねえ。こんじえは野鳥識別クイズの中級編ぐれえだ。毘沙沢では、鳥は見下ろせるぐれえ近くまで来るちゅうごどだべな。「サファリパーク・びさざわ」なんていいんでねえが。

そんじえ、鳥のごんだども、最初の緑色の鳥はアオジだべな。ノジコも似でんだども、これはめずらしい鳥なので、アオジにしておくぞや。頭の黒い鳥は、クロツグミのオスだべな。葉っぱをめぐって虫やメメズ(ミミズ)なんぞ食べてんぞや。(イサム)

5/27 アカショウビン

今朝、毘沙沢でアカショウビン初鳴き、確認……。ウワミズザクラが満開です。(博)

6/4 夢のような気分

きんな(昨日)の朝っぱら(朝早く)、只見字原のMさんから電話がきたぞや。赤い鳥が窓にぶつかって気絶してところをバケツでつかまえておいたから、早く来てきろという内容。現場に行つてバケツをのぞくと、アカショウビン

でねえの!! 窓ガラスを割って、そのまま落下。しかし、元気がいい。赤いくちばしをふりまわして、さかんにかみついてくる。なかなか、かどい(気性が荒い)。脚の根元をもってもらって撮影したのがこれ。こんな機会はめったにねえごつた。夢のなかで写真を撮っている気分。んじゃがら、止めにえ。(イサム)



6/5 ヒメサユリ

百合平にヒメサユリの計測に行ってきました。町を見下ろす日当たりの良い一等地に生えている1本だけが花を咲かせていました。小戸沢林道にも行ってきましたが、こちらはたくさん咲いていました。それから、うちの軒先のカマキリの卵からたくさんの子が旅立っていました。(麻衣子)



6/11 三石神社にて!

ユリ平の調査に同行したところ、清水場で成体のハコネサンショウウオを確認することができましたので報告します!

(はるか)



6/12 スネドウシ

「山にはスネドウシっっていう赤い小さなヘビがいて、寝ていると、ガスアナツポ(お尻の穴)からもぐり込んで、はらわた食われっから、山では寝るんでねえ」と小さい頃から聞かされていたヘビ。赤い小さなヘビには、ジムグリとシマヘビの幼蛇がいつも、赤味の強さやつるつるした肌からいって、スネド

ウシっというヘビは、ジムグリのごんだべな。ちなみに、「もぐる」ことを、只見では「むぐる」というぞや。ジムグリとは、地中にむぐるヘビという意味。標準和名が方言のような古い名前からついた例だべな。このヘビは、事務局長のカッコネーが館ノ川で見つけて、おらいの娘が捕まえてもつて来たのをわーがい(我が家)の庭で撮ったもんだぞや。(イサム)



とてもかわいいジムグリですね。県内全域でまだ健在の場所がある一方、環境の変化からカエサのネズミ類が減少し、それにとまってジムグリが少なくなった印象を持つ地域もあります。只見の財産として、この小さな生き物も大切にしたいですね。(イナバ)

6/16 コチドリ初記録

只見駅ちかくの砂利場で、チドリの鳴き声がすつがら、行ってみた。そしたら、コチドリだんねーの。コチドリは、まっとう下流の大きな河原にいる鳥で、只見のような奥山の上流域ではイカルチドリしかいねえど思っでだ。これがコチドリの初記録だぞや。まっとうメー(以前)がら、いだんだがもしんにえが、イカルチドリしかいねえど思っで、よーく見てこながった。なんでも慣れちまうど、ダメのんだな。(イサム)



6/18 コチドリの繁殖確認

このめえー(前)のコチドリだども、ヒナが1羽いだけ。ちゅうごどは、只見で繁殖しだちゅうごどだぞや。繁殖も初記録。ふつうは、2~4羽ぐれえの子めら産むらしいども、カラスどがに食わっちゃんであんめが。親も1羽、子めらも1羽。ちよつどさみしいども、

なんだか無事、飛び立ってもらいな。
(イサム)



6/18 ホタル飛んだ

黒沢で、ただ今(20:30頃)、若犬のオシッコタイムで集落をひと回りしてきました。フワフワとホタルが飛んでいるのを発見。今年初です。今夜は傘もいらなくらいの小雨。でもホタルにとっては気温がかなり低めです。集落の山際で3頭確認しました。ゲンジだと思います。(彰)

6/20 ホタル追伸

18日に続き、ほぼ同時刻20:30頃、黒沢集落の同ルートを歩きました。だいたい400-500mでしょうか。おとといよりは暖かい。風はなく、ときどき月が雲間から顔を出すとかなり明るい夜。集落の山側を中心に14頭確認しました。ゲンジだと思います。おとといよりだいぶ増えました。(彰)

6/20 化物谷地

写真家の林さんのお供で、明治に開削された八十里越新道を化物谷地まで行ってきました。入叶津のゲートから4.5kmで八十里越の入口です。ここまでヤマサのSさんに、車で送ってもらいました。お迎えまでいただき、本当にありがとうございました。山道を1時間ほど歩きました。道は思ったよりもよかったです。途中、2、3箇所崩落していましたが、とくに危険な場所はありません。約1時間ほどで、化物谷地に着きました。化物谷地という地名からジメジメとした湿地を想像していましたが、実際は沢と沢に挟まれた200-300坪くらいの明るい平地でした。低灌木が繁茂しており、沢には水芭蕉がありました。残念ながら、化物どころかネズミ男にも会いませんでした。(信)

6/25 うちのサンショウウオ

今日、自宅の泉水(池)を覗いたらサンショウウオが数匹いました。大きくなって、また戻って来て欲しいなあ！

ちなみにこれはトウホクサンショウウオでしょうか？

(郁奈)

トウホクサンショウウオの幼生かと思います。ただ、結構やせているのが気になります。無事育って成体になったら、また産卵にやってくるといいですね。(イナバ)

6/29 ホタル情報

1. 布沢分校前の川 ゲンジ11
 2. 小林野々沢出口 ゲンジ5、ヘイケ1
 3. 九九生 田んぼ ヘイケ3
 4. 大倉 ゲンジ1
- 皆様の情報待ってまーす。(和子)

6/30 浅草岳のヒメサユリ

新潟県側から浅草岳に登りました。ネズモチ平の駐車場には一昨年の水害でまだ行けません。浅草岳エコミュージアム付近に7時半に着いたのですが、もう車がびっしりです。登山者の多さに驚きました。山ガールもいました。登山ブームって本当だなと思いました。車を止めたところから、ネズモチ平登山口を経て、約3時間半で山頂です。絶え間なく登山者と出会います。皆さん、清楚で可憐なヨシナガサユリがお目当てとのこと。あつ、違う。ヒメサユリですね(わかつとるわい!)。苦労して登った浅草岳の頂上付近で見るヒメサユリは格別です。7月中旬ごろまでが見頃かと思えます。残雪もあります。同行した2人の埼玉県人(女性です)も感激して帰りました。あの2人は来年も只見に来るかと確信しました。入広瀬駅まで2人を送った帰り、雨の中252号線を歩いている登山者(若いカップル)を発見。車を止めて声をかけました。

私「どこまで行くのですか？」

登山者「田子倉登山口に車を置いてあるので、そこまで歩きます」

私「乗っていきませんか？」

2人を乗せました。えらく感謝されました。田子倉登山口から浅草岳、鬼ヶ面山と縦走してきたそうです。

「只見には浅草岳以外にも蒲生岳などいい山がありますよ。ぜひ、また来てください」といったら、女性が「絶対来ま



す！」よしよし、これで4人ゲット。さらに行くと、もう1人歩いている人がいたので、これも車に乗せて、田子倉登山口まで送りました。5人目はどうかな？(信)

7/3 南会津建設事務所来宅

南会津建設事務所の河川砂防課長と事業担当主査が来宅。黒谷川のユビソヤナギが、洪水後の種子散布によって2年生実生が確認され、将来、小群落の形成が期待できるとの調査報告書を持参してきました。本会からは、新国と本名が対応しました。仙台の某研究所が、今年5月に3日間調査したものです。私からは、ユビソのコアゾーンが洪水によって流失したと報告書にあるが、実際は洪水後の河川工事によって破壊されたものであること、ユビソの2年生実生としているが、明確な証拠は花器を調べないと確定できないものであり、ユビソの実生が育っていると断言できる段階ではないと述べました。本名からは、瀬と淵で川の生態系を取り戻すこと、確実な漁道の改良について要望しました。話し合いは、2時間半にもなりましたが、県側も、3つのコアゾーンを設けることでユビソの保全を図りたいとの意思是感じられました。絶滅危惧種があるということは、自然生態系が豊かな証です。遅まきではありませんが、施行業者にその気が出てきたことはよいことです。(イサム)

7/7 ヒグラシ鳴く

ヒグラシ、南相馬の20km圏内でも昨日の夕方、今年の初鳴きを確認。地上1mの高さで3μSv前後ある南相馬市小高区の里山。家はあっても無人、田畑は荒れ放題の集落内。庭先には子供の三輪車が錆びたまま雨ざらしに。夕飯の支度をする人も、セミ採りをする子供も、勤務帰りの車も、もちろん田畑にも誰もいない。SFの世界の中でヒグラシは鳴く。住居制限区域の夕暮れ、アライグマやハクビシンが家の中にも住む現場、調査のため立ち入りした哺乳類研究者のSさん、Oさんとともに聞く。今の福島県にはこんな場所がある。無念のまま自らの命を絶つ人もいる。森の中を自由に歩き回り、山や川からの恵みに感謝して食し、普通に暮らせる日常の大切さを強く感じます。(イナバ)

7/25 アマゴイルリトンボ

場所は教えらんにもえども、きょう、アマゴイルリトンボを見に行ってきた。けっこう珍しいトンボらしい。名前は、八十里峠を越えて旧下田村の雨乞池で見つけらっちゃんてつだじゅうごんだ。面白っしゃがったのは、交尾している夫婦のあとをつけているオスが1、2匹いごんだ。産卵しているちかくの草にとまって、じっと見でんだ。人様のカガ(奥さん)をぶん捕んどるつもりであんめが。結局、それは見らんにかがったども。(イサム)



8/6 クロメンガタスズメ

数日前、畑のナスの葉っぱを写真の子がむしゃむしゃ食べていました。地面にトウモロコシの糞くらいの大きさの糞がごろごろ落ちていたので周囲の葉っぱを点検したら、鮮やかな緑色の10cmくらいのが張り付いていてあまりの大きさと不気味な色に思わず「ぎゃーっ」と叫んでしまいました。調べてみると「クロメンガタスズメ」という蛾の幼虫でナスやトマトの葉っぱを食害するというのです。元々は九州でも稀な暖地系のスズメガだったのが1990年代ごろから増加し分布を広めているそうです。(麻衣子)



8/13 珍しいもの発見!

自宅近くで今まで見たことのない猫じゃらしを発見しました。間違いなく1本の茎なのに、こんな感じに育って

面白いですね。アスファルトから無理無理と芽を出して育ってます。(郁奈)



これは面白っしえーなあ。四ツ葉のクローバーっていうのはあつとも、三穂のエノコログサっていうあなは初めてだ。多分、花芽を作るときにふんのぼる(踏みつけられる)どがさっちえ、こだになっただべな。あど、郁奈ちゃんの観察眼、なかなかいいぞや。(イサム)

8/13 調査観察会報告

倉谷から伊南川合流点までの黒谷川の改修工事状況と魚類調査報告です(7名参加)。前日から設置された4か所の捕獲網の結果、ヤマメ1匹 カジカ1匹 ウグイ3匹 アブラハヤ2匹でした。魚や昆虫は非常に少なかったようで、その結果見えることを新潟魚類調査NPOの風間さんより伺いました。「魚の餌がほとんど見られなかった。考えられる原因として、川底の石に藻がついてない(工事による濁りで光合成ができず藻が育たない)ことと、水生昆虫がほとんど見られない(単調な川底と川を被う河畔林がないので落下昆虫も望めない)」などでした。「できれば定点観測して川の変化を見ていってら良いでしょう」と締めくくられました。区長さんも同行されましたが、工事の経過説明は地元にはほとんどないらしく、地元の人がしっかり検証して行きたいとのことでした。実験段階らしいバープ工法などは、自分たちでできることかもしれないそうです(由昭さんが調べてみるそうです)。(和子)

8/16 ミズスマシ

実際は1cmにも満たない生物ですが、職場の灯りに誘われて飛んで来てました。こんなところに



珍しいなあ、と。水田など水辺に生息していて、以前はよく見かけたものです

が、今は農薬の影響や水田改良などで住処がなくなり減少してるんだろな。(郁奈)

8/31 ツバメの様子

夕方ツバメが大群で自宅近くを空いっぱい飛んでいます。トンボなど餌をとるために飛んでいるのか、それとも巣立って日本を離れてしまうのか…? あまりにものたくさんのツバメが飛んでいてビックリしました。(郁奈) 郁奈ちゃん、そのツバメは南の国に帰るために集まってんだべな。巣だった若鳥が加わって大集団となり、近くに大きなねぐらをつくっているはず。ねぐらはススキ原だぞや。こんだけのツバメが人家周辺で見られるのも、只見ならではだべな。(イサム)

8/31 電線のハクセキレイ

おらい(我が家)の前手の電線には、夕方になると、ハクセキレイが集まってくんぞや。夕方6時ころからにぎやがになってきて、7時をすぎると電線に一列に並んでおどなしぐなる。その数40羽前後。よく都会の駅前の街路樹やネオンに数百羽も集まるごどはあんでも、こだ只見みでえな田舎ではあんな見らんにもえごんだ。これは只見が都会になったちゅうより、ハクセキレイの数が増えてきたちゅうごどだべな。(イサム)



9/7 エコパーク推薦 毎日新聞

仙台・佐野です。「只見地域と南アルプス地域をエコパークに推薦決定」の記事です。9/5 毎日新聞

■エコパークに只見など推薦へ

文部科学省は4日、生態系の保全と持続的な活用を両立を図る国連教育科学文化機関(ユネスコ)の「エコパーク」として、福島県の只見地域と、山形、長野、静岡3県にまたがる南アルプス地域を推薦することを決めた。9月中旬にユネスコに推薦書を提出、審査を経て来年6月に登録の可否が決定される。

登録が快まれば、2012年に宮崎県の綾地域が登録されたのに続き、国内で計7件となる。既に登録されている志賀高原(群馬、長野)の地域拡大も申請する。

エコパークは1978年、ユネスコの自然保護事業として始まった。厳重な環境保全を求められる世界自然遺産に比べ、一定の経済活動が認められている。オリーブ産地(イタリア)など11か国で21地域が登録されている。国内の登録地は綾、志賀高原のほか、那須高原(鹿児島)、大台ヶ原(大塚山(三重、奈良)、白山(福山、石川、福井、岐阜))。

9/9 シロマダラ

おとこの夜、イナバさんとヘビ狩りに出でくださいや。そしたら、イナバさん、すんま(すぐ)シロマダラの子めら発見。家に持ち帰って、なにか吐き出した。トカゲの子めらだ。30cmのヘビが6cmのトカゲを呑み込んでた。シロマダラは、ヘビやトカゲ、カナヘビを食うヘビだとも、これだけよくいるっちゅうごどは、只見はヘビ王国だどうごどだべな。(イサム)



9/11 コノハズク

国道252号線、田子倉地内の道路上で、コノハズク発見。夜、仏法僧って鳴く、日本でいちばん小っちゃえフクロウ。いまはめったに声は聞かなくなっちゃった。山で見つけるのもまず無理。それが車にぶつかって死んでいた。なんちゅうごどだ。オラのお宝、また冷凍庫に追加。(イサム)



9/19 今夜は十五夜

家で作った野菜15品と団子とスキをあげまして、お月さまを拝みました。空にうつっているのは、満月です。

(さなえ)



9/20 シャカシメジ

シャカシメジとはよく言ったもので、お釈迦さまの頭にそっくりだ。きょう、

群生地を見つけきただ。場所は、教えらんにあ。んめえキノコだ。今年は、豊作になっぺが？(イサム)



9/25 このヘビは？

小さいほうの蛇(写真上)は頭の下側に白い色がついていました。(夢街道)



上の写真の個体はヒバカリの幼蛇、下の写真はヤマカガシの黄色色素欠乏の個体かと思えます。おそらく、きれいな青色個体か。只見では震災前に新町で見たことがありました。ヤマカガシは毒ヘビなので、個人的にはあまりつかみたくないのですが。(イナバ)

10/1 網ガエル

毎晩、オライの玄関先には、10匹前後のアマガエルが来っども、今年はちっと毛色が違ったカエルがいんぞやい。網の上を歩いて虫を捕めえるあんだ。ツバメさ、巣、掛けらんにあように網、張っておぐだども、これがカエルにとっては虫捕めえにちょうどいいようだ。アマガエルも、壁ばつがでねえ、網の上も歩くように知恵がついだだな。(イサム)



10/6 あがりこの只見方言

あがりことは、秋田県の方言名ですが、只見での呼び名もあるはずと聞き歩いていましたが、やっとわかりました。只見方言では、「モギリキ」と言います。まさに、もぎりとする木です。これは、早春の春木山という伐採で行われます。黒沢集落から登った山にコナラの巨木あがりこがありますが、ここはマキノタイラという場所だそうです。モギリキという呼び名は、只見字新屋敷、黒沢の人から確認しました。みなマキノタイラで春木山をしていた人たちでした。布沢では、ブンモギッキと呼んだという人がありますが、この方言は再調査が必要と思われます。

とにかく、只見の方言名が確認できてよかった。(イサム)

10/9 テングコウモリ確認

きんな(昨日)、南郷の禮次郎あんにゃ(敬称です)がら、畑の花豆の葉っぱに変なコウモリがくっついていだんで、とっておぐどって電話あったぞや。きょう行って見できたら、なんとテングコウモリ。絶滅危惧Ⅱ類。只見では、向山先生が黒谷川で1頭、捕まえただけ。コテングコウモリはけっこういるども、テングコウモリは珍しいぞや。鼻っ先がとがっていて、毛色も白っぽい。暴れで、禮次郎あんにゃの指先に噛みつきまぐっでいだども、さすが禮次郎あんにゃ、痛えども言わねえで、いじっていだずや。(イサム)



編集室より●じつに久しぶりに学ぶ会通信をお届けします。予算があるので今回はカラー印刷にしました。ほとんどのページがメーリングリストからの転載です。イサムさんの只見弁講座のようでもあります。次号はもう少し内容の濃いものにしたいと思います。表紙の秋の木の実、なんだかわかりますか。写真ではむずかしい？(クマ)